



(改造して頂いたお陰で、ご主人様との繋がりをを感じる。)

ご主人様が興奮して下さい下さっている事も伝わってくる……♡)



「さあご主人様、闇の聖杯ヒカリ、いつでも準備は万全です。

なんなりとご命令ください」



「じゃあ早速、最初は口で相手してもらおうかね」
「はい、お任せください。生まれ変わったご主人様専用の口まんこ、
是非ご堪能ください♡」



「……やっぱり凄い……♡」

（ああ……なんて遅しくて雄々しいの……♡）



（雌である以上、こんなのに逆らえるわけ最初からなかったのよ）

早く……早く……早くしゃぶりつきたい……♡おちんぽ我慢できない
「涎垂らして、まるで犬だな。だが躰の出来てる犬は好きだぜ。
待てが出来て偉いぞ。よし」





あまの♡

「はっ！ありがとうございます！おまねー………♡」

「どうだヒカリ。生まれ変わった最初のちんぽの味は」



ちゃ

しゃぶしゃぶ

しゃぶしゃぶ

しゃぶしゃぶ

「れんお……♡さらさらうれしゆ……♡ちんぽが

我慢汁もお……チンカスもお……あますところなくご馳走れしゆ……♡ちんぽ♡」



「……とぶぅ、しゃぽぅ♡……んふうっじゅ、しゃぽぽ」

（はあああ♡……回まんこ、たまらない♡

おまんこよりもご主人様の匂いや味が感じられる。）

ちゃ

しゅわ

しゅわ

しゅわ

「そういえばお前にはフェラをさせた事なかったな。」

「大丈夫……れしゅ……回まんこのやり方も……」

「しっかり……じゅる……学習させて頂きましたから……」

じゅる

ハハハ

じゅる

じゅる

じゅる



「初めてとは思えな舌使いだよ。じじいのマシーン様々だな」

「ちゅる……お褒め頂き、光栄れす……♡」





（そう……生まれ変わる前のご主人様との記憶にもない。でもわかる……
知識として、情報として、どう舌を動かせばご主人様を喜ばせられるのか知っている）

じゅるるる

じゅるる

じゅるる



(そして、口だけじゃない、喉を使うともっと気持ちよくなれるって事も……)
「おっっっ！……じゅぽぽ、んぐう……じゅぶぶ♡♡」

じゅぽぽ

じゅぽぽ

じゅぽぽ



「うお、喉奥イラマすげえな。こんな事進んでやるなんてお前はオナホの鏡だよ」

「ムボッ♡うれひいですっ、もっとな、きボちよくっ………してあげますっ♡ジューブブ」

（苦しいのも……息が出来ないのも……）

喉奥に鬼頭が当たってええきそうになるのも……全部全部気持ちいい♡♡

オナホ

オナホ

オナホ

オナホ

（オナホとして乱暴に扱われれば扱われるほど、満たされるのを感じる）





「たまらねえ。早速一発出そうだ。喉奥に全部流し込んでやる。受け止めるよヒカリ！」
「はいっ……♡出して、出してください！ロオナホの中にぷりぷりザーメン♡」



くわわわわ

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

くわわわ

くわわわ

（あああああ出てる、ご主人様のでき立て子種汁、

臭くて熱くて、美味しすぎるう♡ゴックン母乳アクメ止まらない♡♡♡）

ゴクッ

ゴキョウ

ゴキョウ

ゴクッ

ゴクッ

ゴクッ

「ザーメン飲みながらいくなんてとんだ変態ブレイドだぜ。
オナホとしては当然のマナーってか。」



「んはあ……はあ……あんなに出したのにまだこんなに元気だなんて……♡」
「当たり前だろ。本番はこれからだ。それとも、ここで終わったほうがいいか？」



「意地悪しないでください……さつきからおまんこ切なくて狂いそうなんです……
だから続き、お願いします。ご主人様……♡」









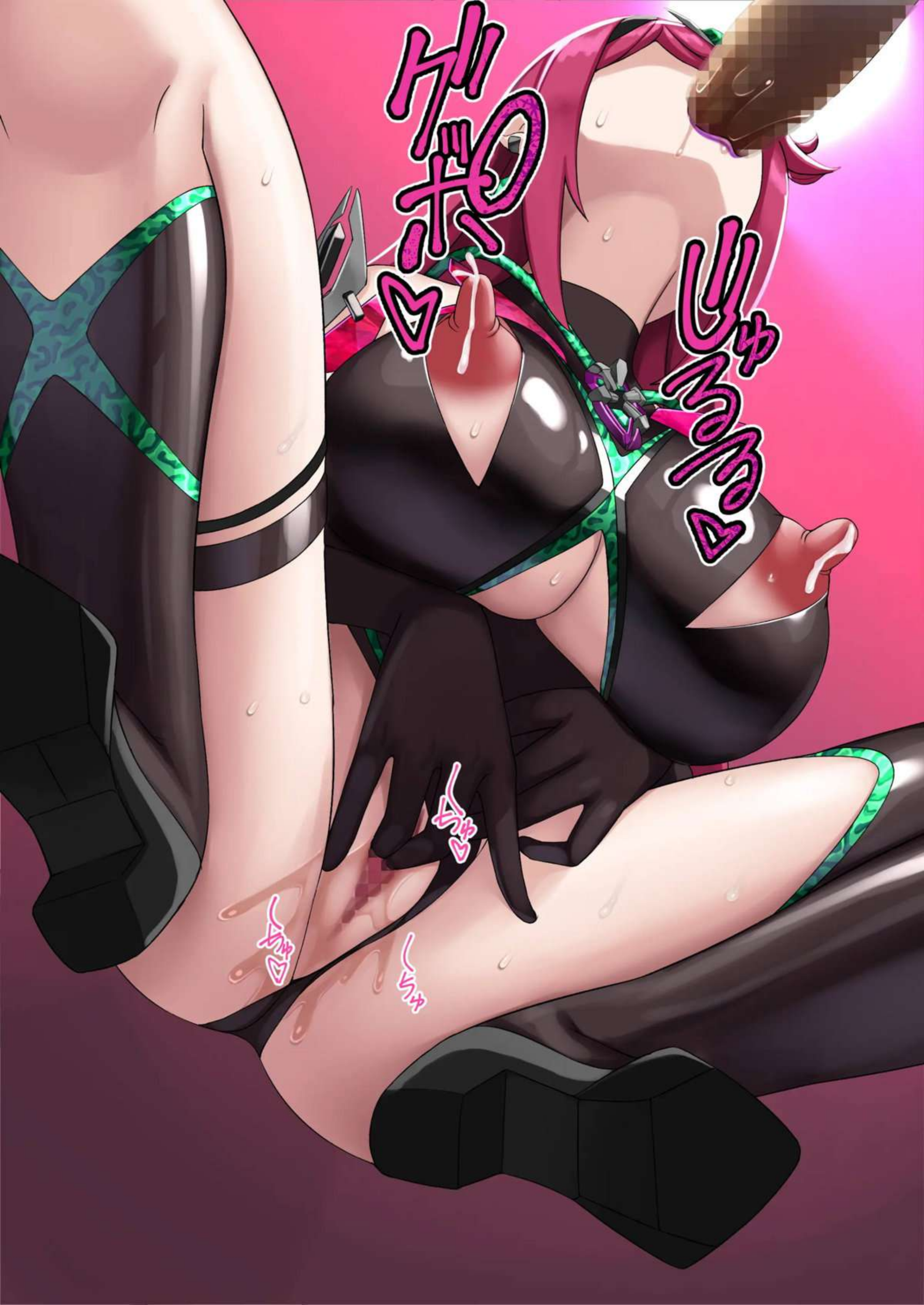


ちゅ

しゅ

しゅ

しゅ









しゅわん♡

しゅわん♡

しゅわん♡



